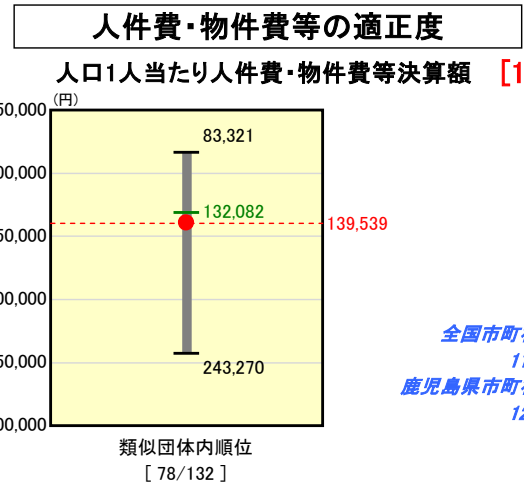
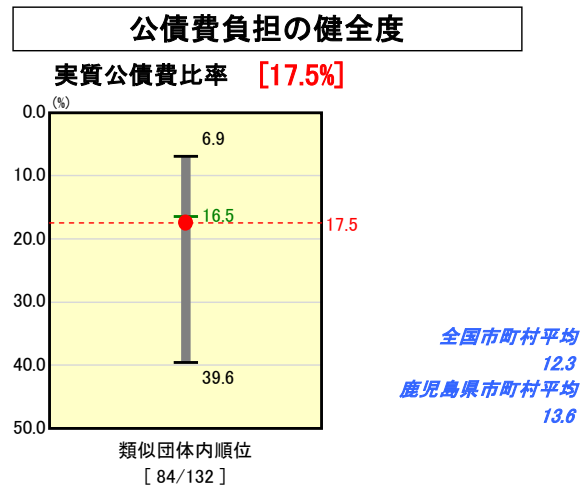
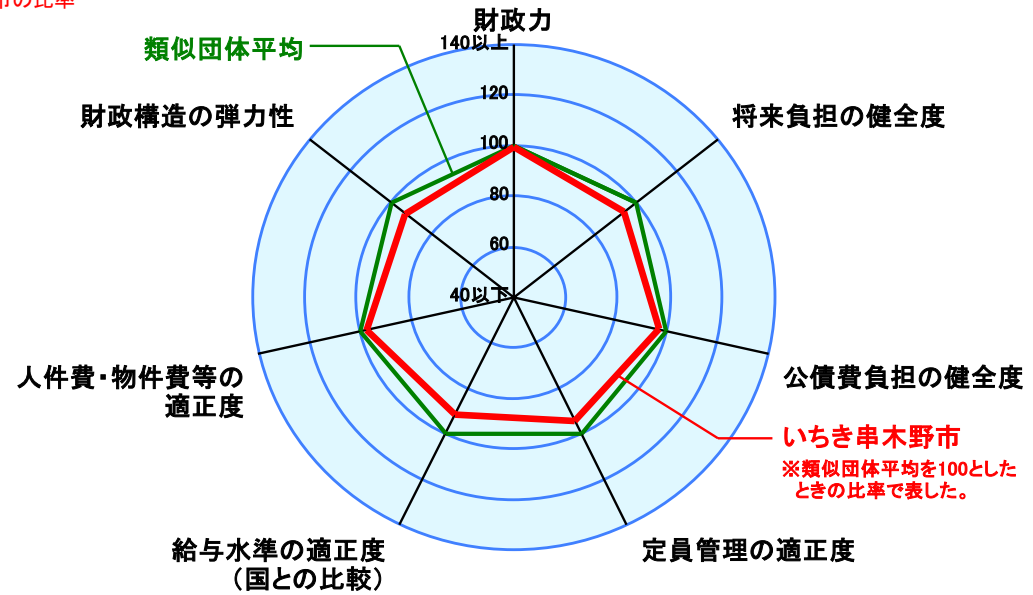
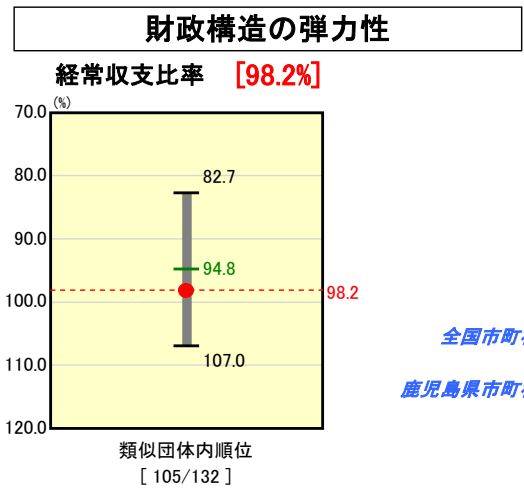
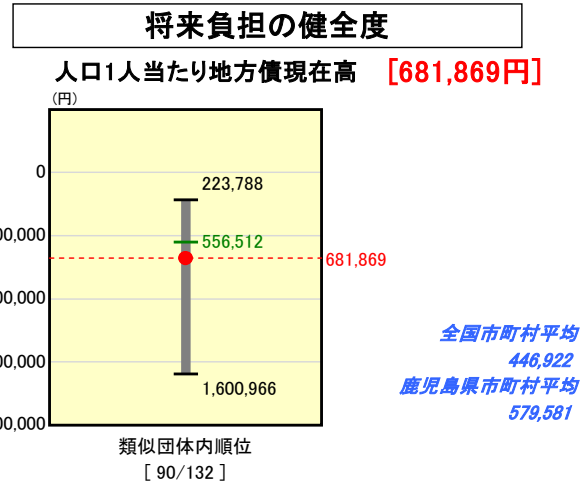
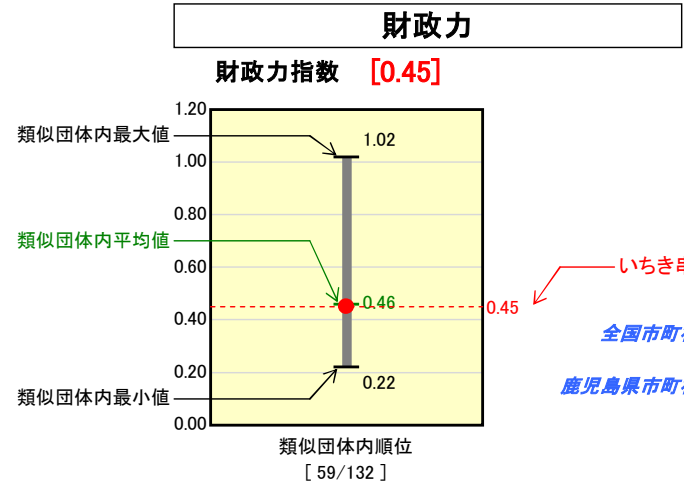


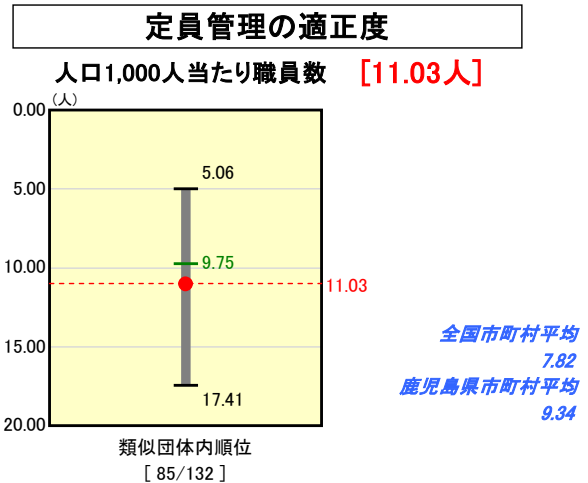
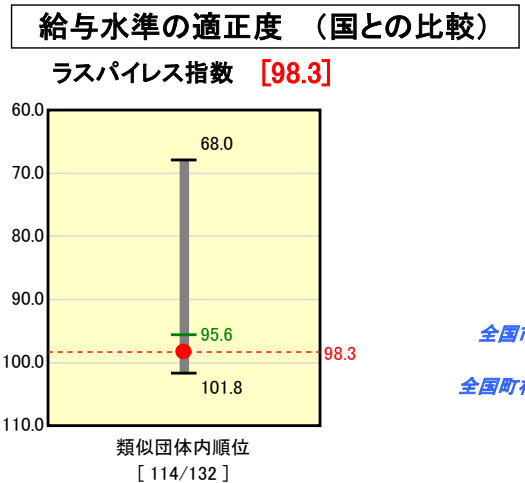
市町村財政比較分析表(平成19年度普通会計決算)

鹿児島県 いちき串木野市

人口	31,916 人(H20.3.31現在)
面積	112.04 km ²
歳入総額	14,004,461 千円
歳出総額	13,559,710 千円
実質収支	424,420 千円



※類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。
 ※平成20年4月1日以降の市町村合併により消滅した団体で実質公債費比率を算定していない団体については、グラフを表記せず、レーダーチャートを破線としている。
 ※ラスパイルズ指数及び人口1,000人当たり職員数については、平成19年地方公務員給与実態調査に基づくものである。なお、平成19年度中に市町村合併を行った団体については、当該項目に係るデータのグラフを表記せず、レーダーチャートを破線としている。



※人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

分析欄

【財政力指数】
 財政基盤の強化を図っているところであるが、今後とも、集中改革プランを踏まえた財政基盤の強化(歳入確保158百万円(5年間))努め、類似団体を目標に数値の改善を図る。

【経常収支比率】
 人件費、扶助費は昨年度と比較すると減少傾向にあるが、類似団体、県内団体と比較すると依然として経常収支比率は上回っている状態にある。集中改革プランに掲げた定員適正化計画に基づく職員数の減(40人)など、更なる行政改革への取組を通じて義務的経費の削減を図る。

【ラスパイルズ指数】
 昨年度の数値と比較すると横ばいであるが、類似団体、全国市平均と比較するとラスパイルズ指数は依然として上回っている状態にある。昨年度に引き続き職務・職責に応じた給与構造への徹底や給与削減により、類似団体を目標に数値の改善(Δ2.7)を図る。

【実質公債費比率】
 昨年度の数値と比較すると減少しているが、類似団体、県内団体と比較すると実質公債費比率は依然として上回っている状態にある。建設事業の整理・縮小(特殊要因を除く)を図り、類似団体を目標に数値の改善(Δ1.0)を図る。

【人口1人当たり地方債現在高】
 昨年度の数値と比較すると減少しているが、類似団体、県内団体と比較すると人口1人当たり地方債現在高は依然として上回っている状態にある。昨年度に引き続き普通建設事業に伴う新規発行債の抑制や公的資金の補償金免除繰上償還の活用により、類似団体を目標に財政の健全化(Δ125,357円/人)を図る。

【人口1,000人当たり職員数】
 昨年度の数値と比較するとほぼ横ばいであるが、類似団体、県内団体と比較すると人口1,000人当たり職員数は依然として上回っている状態にある。更なる定員適正化計画に基づく職員数の減(40人)や事務事業の見直し(組織機構の再編・整備等)、指定管理者制度を引き続き導入することにより、事務効率化の促進を図る。

【人口1人当たり人件費・物件費等決算額】
 昨年度の数値と比較すると減少しているが、類似団体、県内団体と比較すると人口1人当たり人件費・物件費等決算額は依然として上回っている状態にある。物件費は年々減少してきているが、人件費の減少について反映されないことが原因であると考えられる。集中改革プランを踏まえ、指定管理者制度の導入を引き続き進めるとし、コストの削減(目標額127百万円(5年間))を図る。